

令和3年版

消防年報



垂水市消防本部



令和4年刊行

はじめに

この年報は、垂水市の消防現勢及び令和3年度中の消防業務に関する諸般の事項を集録し、消防事情を紹介するとともに、将来の参考に資するために、編集したものであります。

なお、この年報の統計資料は、原則として歴年をもってあらわし、予算に係のある事項については、会計年度で作成し、それ以外のものについては、当該表にそれぞれ記載した年月日現在をもって表してあります。

令和4年7月

— 目 次 —

総 括

1	垂水市の位置と地勢	1
2	垂水市の広望	2
3	垂水市消防本部・署及び牛根分遣所の位置	2
4	垂水市の面積及び世帯と人口	3
5	消防車両一覧	4
6	統計	6
7	垂水市消防沿革概要	7
8	分布図	1 5
9	平面図	1 7
1 0	消防本部（署）の市町村相互応援協定	1 9
1 1	消防団の市町村相互応援協定	1 9

組 織

1	組 織	2 1
2	事務分掌	2 1
3	垂水市消防本部組織図	2 4
4	歴代消防長	2 5
5	消防職員の階級別年齢	2 5
6	消防職員の在職年数調べ	2 6
7	消防力の基準と現有	2 6
8	消防職員教養状況	2 7
9	消防決算	2 8

消防資機材

1	垂水市消防機器配置状況	3 0
2	消防ポンプ自動車	4 6
3	山林火災用資機材置場	4 6
4	消防水利	4 6
5	特殊資機材配置一覧表	4 7
6	車庫及び機材・資材置場	4 9
7	退避壕	4 9

救急・救助

1	年別救急業務取扱状況	5 0
2	過去5年間の救急業務実施状況	5 1
3	時間帯別・曜日別救急出場状況	5 2
4	事故種別年齢区分別搬送人員	5 3
5	被搬送者の疾病程度	5 4
6	現場到着所要時間別出場件数調	5 5
7	収容所要時間別搬送人員調	5 5
8	救急隊員の行った応急処置状況	5 6
9	救助活動	5 7

火 災

1	年別火災発生状況	5 9
2	過去5年間の原因別火災件数	6 0
3	令和3年中火災発生状況	6 1
4	垂水市における主な建物火災	6 1
5	自主防火団体	6 2

予防・危険物

1	防火対象物現況	6 3
2	危険物施設数	6 4
3	建築同意事務処理状況	6 4

気 象

1	年間降水量	6 5
2	気 象	6 5

通 信

1	無線局配置状況	6 6
2	緊急通報内容	6 8

消 防 団

1	歴代消防組頭・警防団長・消防団長	7 1
2	垂水市消防団の出動区分	7 2
3	災害時消防団配置	7 2
4	垂水市消防団編成表	7 3
5	分団別消防ポンプ自動車	7 4
6	分団別小型動力ポンプ	7 5
7	垂水市消防団現勢	7 6
8	階級別団員数	7 7
9	勤続年数別団員数	7 7
1 0	年齢別団員数	7 8
1 1	消防団出動状況	7 8
1 2	消防団員教養状況	7 9
1 3	消防団員の報酬及び手当	7 9

総括



1 垂水市の位置と地勢

大隅半島の鹿児島湾に面するほぼ中央部、東経 130 度 42 分、北緯 31 度 29 分に位置し、東は高隈山、鹿屋市輝北町、北東は霧島市福山町に接しています。

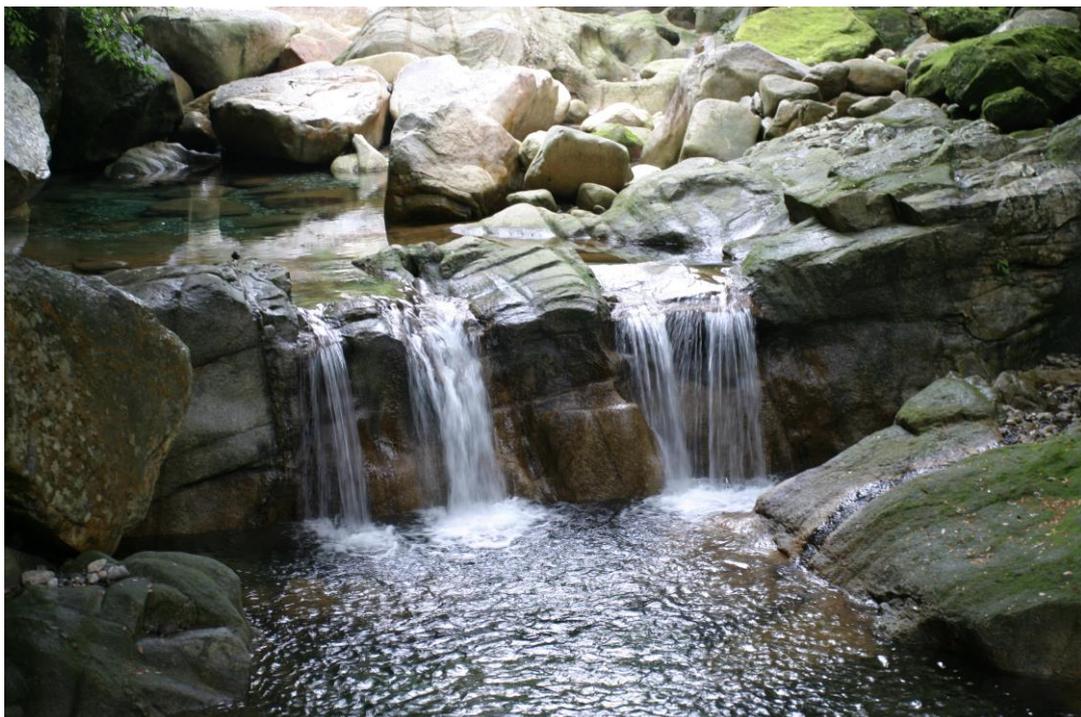
また、南は鹿屋市古江町と隣接し、海岸線は延々 37 キロメートルにおよび鹿児島市東桜島町に隣接しています。

人口 約 1 万 4 千人、総面積 162.12 平方キロメートルであり、約 56.9% が山林になっています。およそ 1,000 戸の農家の総耕作面積は 1,240 ヘクタールで、年間平均気温が摂氏 18 度と温暖で果樹、蔬菜園芸に適し、水産および養殖業が盛んです。

また、高隈山麓の雄大な高原、高峠は自生つつじの名所で、その麓に広がる高峠高原、猿ヶ城溪谷は絶好のハイキングコースとなっています。猿ヶ城溪谷は垂水市街地から車で約 10 分程度で行くことができることから垂水市のプチ秘境と言われています。猿ヶ城溪谷と隣接する「森の駅たるみず」は宿泊施設や調理・加工室、会議室等も完備され体験観光を楽しむことができます。

大隅半島一の温泉郷である当市は、豊富な湯量をほこり、国道 220 号沿いの道の駅湯つ足り館には全長 60 メートルの、足湯も完成し訪れる人々に安らぎを与えるとともに、大正 3 年の桜島爆発でできた入江は青く美しく、紫の高隈連峰にいだかれる静かな錦江湾に面する大隅半島の玄関口であります。近年ではシーズンを迎えると映画のワンシーンのような風景を楽しむことが出来る垂水千本イチョウ園が有名です。また、平成 30 年の 11 月には道の駅たるみずはまびらがオープンし新たな観光拠点として賑わっております。

なお、大隅半島の海の交通機関として、本市と対岸鹿児島市を 35 分で結ぶカーフェリーも就航しており、垂水新港が整備され周辺には新興住宅が建並び、鹿児島市のベッドタウンとしてもますます発展しつつあります。





市章

昭和33年10月1日制定。
垂水の「タル」を組み合わせ、
住民の団結と親和の中に飛躍性
を印象づけたもの。



2 垂水市の広望

東西	11.78 キロメートル
南北	23.35 キロメートル
海岸線	37 キロメートル

3 垂水市消防本部・署及び牛根分遣所の位置

消防本部・垂水市消防署

垂水市上町112番地2
東経 130度42分09秒
北緯 31度29分22秒



牛根分遣所

垂水市二川牟田552番地7
東経 130度47分14秒
北緯 31度34分47秒



4 垂水市の面積及び世帯と人口（令和4年4月1日現在）

総面積	世帯数	人口
162.02 平方キロメートル	7,280 世帯	13,733 人

垂水市消防署管轄人口

垂水	柁原	水之上	協和	大野	新城	計
7,361	1,147	1,380	1,467	127	874	12,356

牛根分遣所管轄人口

境	二川	麓	計
525	470	382	1,377

5 消防車両一覧（令和4年4月1日現在）

（1）本署



タンク1号車
（日野 H29年購入）



タンク2号車
（日野 H19年購入）



ポンプ車
（日野 H27年購入）



電源照明車
（日野 H24年購入）



救急2号車
（トヨタ H25年購入）



救急1号車
（トヨタ H27年購入）



指令車
(トヨタ H20年購入)



防災活動車
(トヨタ H27年購入)

(2) 分遣所



資材搬送車
(ダイハツ H17年購入)



タンク車
(日野 H22年購入)



積込車
(ダイハツ R2年購入)



救急車
(トヨタ H30年購入)

6 統計（令和4年4月1日現在）



職員数 44名
定員 44名



団員数 259名
定員 311名



火災件数 8件
死者 0名



救急件数 919件
搬送人員 904名



救助件数 5件
救助人員 5名

7 垂水市消防沿革概要

(1) 消防団

明治 初期	田神村消防2才組発足（15才～30才）
明治20年 1月16日	垂水郷田神村私設消防組発足（20才～40才 幹部44人 組員348人） 頭取 田神 前田八束
	同時に 竜吐水 6基 大綱 2筋 高張提灯 1張 とび口 24本 小樽 100個 大旗 1等
	を購入出火消防申合せ規約制定
明治25年11月10日	大ポンプ独乙型第114号並びにハンド郷筒石川島製購入
明治27年 2月	垂水村消防組設置指定村勅令第15号を受け、公設消防組発足
大正 3年 1月	桜島爆発にあたり救助活動にあたる
大正11年 4月	協和私設消防組発足
大正13年 3月 1日	牛根村私設消防組発足
大正13年 3月 1日	新城村私設消防組発足
昭和 3年 4月	柗原私設消防組発足
昭和14年 1月24日	勅令（第20号）警防団令施行に基づき垂水村警防団に改組
昭和20年 4月～8月	空襲に対して警防活動
昭和22年 4月30日	勅令（第185号）消防団令施行に基づき垂水町消防団に改組
昭和33年10月 1日	市制施行により垂水市消防団に改組
昭和44年 2月20日	日本消防協会竿頭授受賞
昭和60年 3月 6日	消防庁長官から竿頭授受賞
平成 元年11月17日	水防活動で建設大臣表彰
平成 2年 9月 1日	水防活動で内閣総理大臣表彰
平成 4年 2月13日	全国消防協会表彰旗授与
平成18年 2月24日	防災功労者消防庁長官表彰
平成19年 2月 8日	財団法人日本消防協会竿頭授受賞
平成25年 3月 6日	消防庁長官表彰旗授与
令和 2年 3月 3日	日本消防協会竿頭授受賞

(2) 消防本部

昭和39年	6月19日	消防団常備部発足（常備団員4名）
昭和40年	2月1日	常備団員1名増員
昭和40年	4月1日	常備団員1名増員
昭和41年	4月11日	常備団員2名増員
昭和42年	9月1日	常備団員1名増員
昭和43年	6月1日	常備団員5名増員
昭和43年	10月27日	一般加入電話から119番へ変更
昭和44年	4月1日	垂水市消防本部設置条例を制定 垂水市消防本部（署）設立、消防職員15名で発足 初代消防長 町田四郎 初代消防署長 前田幸利
昭和45年	5月1日	消防職員3名増員（計18名）
昭和46年	4月1日	消防職員4名増員（計22名）
昭和46年	9月1日	消防職員異動のため1名採用（計22名）
昭和46年	12月31日	消防職員1名退職（計21名）
昭和47年	4月1日	消防職員3名増員（計24名）
昭和47年	12月1日	2代目消防署長に倉岡弘人就任 消防署次長に杉之尾明就任
昭和48年	1月10日	消防職員1名退職（計23名）
昭和48年	3月22日	消防職員1名退職（計22名）
昭和48年	4月1日	消防署次長に前田真平就任
昭和48年	5月1日	消防職員2名増員（計24名）
昭和50年	1月28日	2代目消防長に枝本豊助就任
昭和50年	3月10日	鹿児島市と消防救急業務相互応援協定締結
昭和50年	4月30日	消防職員1名退職（計23名）
昭和50年	5月1日	鹿屋市と消防救急業務相互応援協定締結
昭和50年	7月5日	消防署次長に高田士朗就任
昭和50年	8月6日	消防職員1名採用（計24名）
昭和50年	8月20日	新城、牛根地区一般加入電話から119番へ変更
昭和51年	9月1日	消防職員10名増員（計34名）
昭和51年	10月1日	牛根分遣所起工式
昭和52年	3月25日	牛根分遣所竣工
昭和52年	4月1日	牛根分遣所消防職員10名で発足 初代牛根分遣所長に立山次雄就任
昭和52年	8月1日	消防本部庶務係長兼消防署次長に宮迫豊治就任
昭和53年	7月1日	消防職員2名増員（計36名）
昭和54年	3月31日	活動火山法に基づき退避豪5ヶ所新設 （脇登、小浜、桜島口、前崎、居世神）
昭和54年	4月1日	2代目牛根分遣所長に坂元清秀就任
昭和56年	4月1日	3代目牛根分遣所長に大迫徳雄就任
昭和56年	7月1日	第3代目消防長に倉岡弘人就任
昭和57年	4月1日	消防本部次長に宮迫豊治就任 消防署次長に立山次雄就任 消防本部庶務係長に西田和則就任

昭和57年	4月	1日	大隅曾於地区と消防救急業務相互応援協定締結
昭和58年	3月31日		倉岡弘人消防長定年退職
昭和58年	4月	1日	第4代目消防長に高田士朗就任
昭和58年	7月	1日	消防本部消防係長に立山次雄就任 消防本部警防係長に坂元清秀就任 消防本部予防係長に葛迫泰明就任
昭和59年	1月	1日	国分地区消防組合と消防救急業務相互応援協定締結
昭和59年	4月	1日	消防本部次長に冨田武延就任
昭和59年	7月	1日	消防職員1名市長事務部局へ異動のため1名採用（計36名） 消防署長心得に立山次雄就任 牛根分遣所長に西田和則就任 消防本部庶務係長に葛迫泰明就任 消防本部消防係長に坂元清秀就任 消防本部警防救急係長に大迫徳雄就任
昭和59年	7月31日		消防職員1名退職（計35名）
昭和59年	8月21日		消防職員1名増員（計36名）
昭和59年	11月23日		消防職員1名減（計35名）
昭和60年	4月	1日	消防職員2名市長事務部局へ異動のため3名採用（計36名） 消防署長に立山次雄就任 牛根分遣所長に町田昭典就任 第5代目消防長に宮迫豊治就任
昭和63年	4月	1日	消防職員1名市長事務部局へ移動（計35名） 消防本部次長に立山次雄就任 消防本部予防係長に大迫徳雄就任 消防本部庶務係長に水迫暁就任 消防署長に坂元清秀就任 消防本部警防救急係長に町田昭典就任 消防本部消防係長に渕之上清孝就任 牛根分遣所長に小野貢就任
昭和63年	5月20日		鹿児島県総合防災訓練開催地
昭和63年	6月	1日	消防職員1名採用（計36名）
平成2年	4月	1日	消防職員1名市長事務部局へ異動、消防職員1名採用（計36名） 消防本部消防係長に小野貢就任 牛根分遣所長に渕之上清孝就任
平成3年	4月	1日	消防職員2名市長事務部局へ異動（計34名） 第6代目消防長に立山次雄就任 消防本部次長に坂元清秀就任 消防本部予防係長に町田昭典就任 消防署長に大迫徳雄就任 消防本部警防救急係長に小野貢就任 消防本部消防係長に関修三郎就任
平成3年	4月	1日	消防職員2名採用（計36名）
平成4年	1月30日		鹿児島県消防相互応援協定締結
平成4年	4月	1日	消防本部庶務係長に関修三郎就任

平成 4年 4月 1日	消防本部消防係長に瀧之上清孝就任 牛根分遣所長に町田博文就任 消防職員 1名市長事務部局へ異動、消防職員 1名採用
平成 6年 4月 1日	消防本部警防救急係長に瀧之上清孝就任 消防本部消防係長に小野貢就任 牛根分遣所長に中島勤就任 消防職員 6名増員 (計 42名)
平成 7年 1月 24日	阪神淡路大震災に救援派遣 電源車 1台 隊員 3名 (大迫、寺田、岩元)
平成 7年 3月 31日	立山次雄消防長退職
平成 7年 4月 1日	第 7 代目消防長に川井田洸就任
平成 7年 5月 27日	消防庁長官表彰 (阪神淡路救援活動)
平成 8年 4月 1日	牛根分遣所長に関修三郎就任
平成 10年 4月 1日	消防本部警防救急係長に重信正治就任 消防本部消防係長に中島勤就任 消防本部庶務係長に宮迫義秀就任
平成 10年 5月 11日	救急救命士資格取得 1名 (才原一生)
平成 10年 11月 25日	救急救命士資格取得 1名 (後迫浩一郎) 消防職員 1名市長事務部局へ異動 第 8 代目消防長に富田武延就任
平成 11年 10月 1日	牛根分遣所長に瀧之上清孝就任 消防本部第 1 消防係長に小野貢就任 消防本部第 1 警防救急係長に関修三郎就任 消防本部第 2 消防係長に中島勤就任 消防本部第 2 警防救急係長に重信正治就任 消防職員 1名減 (計 41名)
平成 11年 11月 27日	富田武延消防長退職
平成 12年 4月 1日	第 9 代目消防長に坂元清秀就任 消防本部次長兼署長に大迫徳雄就任 消防本部消防係長に小野貢就任 消防本部救急救助係長に関修三郎就任 消防本部警防係長に中島勤就任 消防本部庶務係長に重信正治就任 消防本部消防団係長に宮迫義秀就任
平成 12年 4月 12日	救急救命士資格取得 1名 (田中昭弘)
平成 12年 11月 17日	救急救命士資格取得 1名 (迫田八州夕起)
平成 13年 4月 1日	消防職員 1名市長事務部局へ異動、消防職員 3名採用
平成 13年 12月 14日	救急救命士資格取得 1名 (市来幸三)
平成 14年 4月 1日	牛根分遣所長に小野貢就任 消防本部消防団係長に瀧之上清孝就任 消防本部警防係長に野元豊一就任 消防本部消防係長に宮迫義秀就任
平成 14年 9月 1日	新消防庁舎 (消防本部、消防団) 落成移転 垂水市上町 1 1 2 番地 2
平成 14年 12月 31日	消防職員 1名退職 (計 40名)
平成 15年 3月 31日	坂元清秀消防長退職 (計 39名)
平成 15年 4月 1日	消防職員 2名採用 (計 41名)
平成 15年 4月 1日	第 10 代目消防長に大迫徳雄就任

	消防本部次長兼署長に町田昭典就任 牛根分遣所長に関修三郎就任 消防本部消防係長に小野貢就任 消防本部予防係長に北迫和夫就任
平成15年 5月 8日	救急救命士資格取得1名(丸山悟)
平成15年 7月10日	消防職員1名減(計40名)
平成15年11月30日	消防職員1名退職(計39名)
平成16年 4月 1日	消防職員2名採用(計41名) 消防本部救急救助係長に松山晃就任
平成16年10月31日	消防職員1名退職(計40名)
平成17年 4月 1日	消防本部予防係長に久留周一就任
平成17年 4月30日	消防職員1名退職(計39名)
平成18年 3月31日	消防職員1名退職(計38名)
平成18年 4月 1日	消防職員2名採用(計40名) 分遣所長に野元豊一就任 消防団係長に永田稔就任
平成18年 7月 1日	課制施行 総務課(3係) 警防課(3係) 総務課長に重信正治就任 警防課長に関修三郎就任
平成19年 3月31日	大迫徳雄消防長退職(計39名)
平成19年 4月 1日	消防職員1名採用(計40名) 第11代消防長に町田昭典就任 消防本部次長兼署長に関修三郎就任 警防課長兼警防係長に宮迫義秀就任 総務課課長補佐兼消防係長に野元豊一就任 警防課課長補佐兼牛根分遣所長に松山晃就任 警防課救急救助係長に永田稔就任 総務課消防団係長に川原通就任 総務課庶務係長に寺田敏正就任
平成20年 4月 1日	緊急消防援助隊消防隊1隊登録 警防課長兼救急救助係長に宮迫義秀就任 総務課課長補佐兼消防団係長に野元豊一就任 警防課長補佐兼警防係長に松山晃就任 警防課長補佐兼牛根分遣所長に永田稔就任 総務課消防係長に川原通就任
平成21年 1月 1日	第12代消防長に関修三郎就任
平成21年 3月31日	消防職員2名退職(計38名)
平成21年 4月 1日	消防職員4名採用(計42名) 消防本部次長兼署長に宮迫義秀就任 総務課長に野元豊一就任 警防課長兼警防係長に松山晃就任 総務課課長補佐兼庶務係長に寺田敏正就任 警防課長補佐兼予防係長に久留周一就任 総務課課長補佐兼消防団係長に永田稔就任
平成21年 4月 1日	総務課消防係長に川原通就任 牛根分遣所長に二川茂也就任

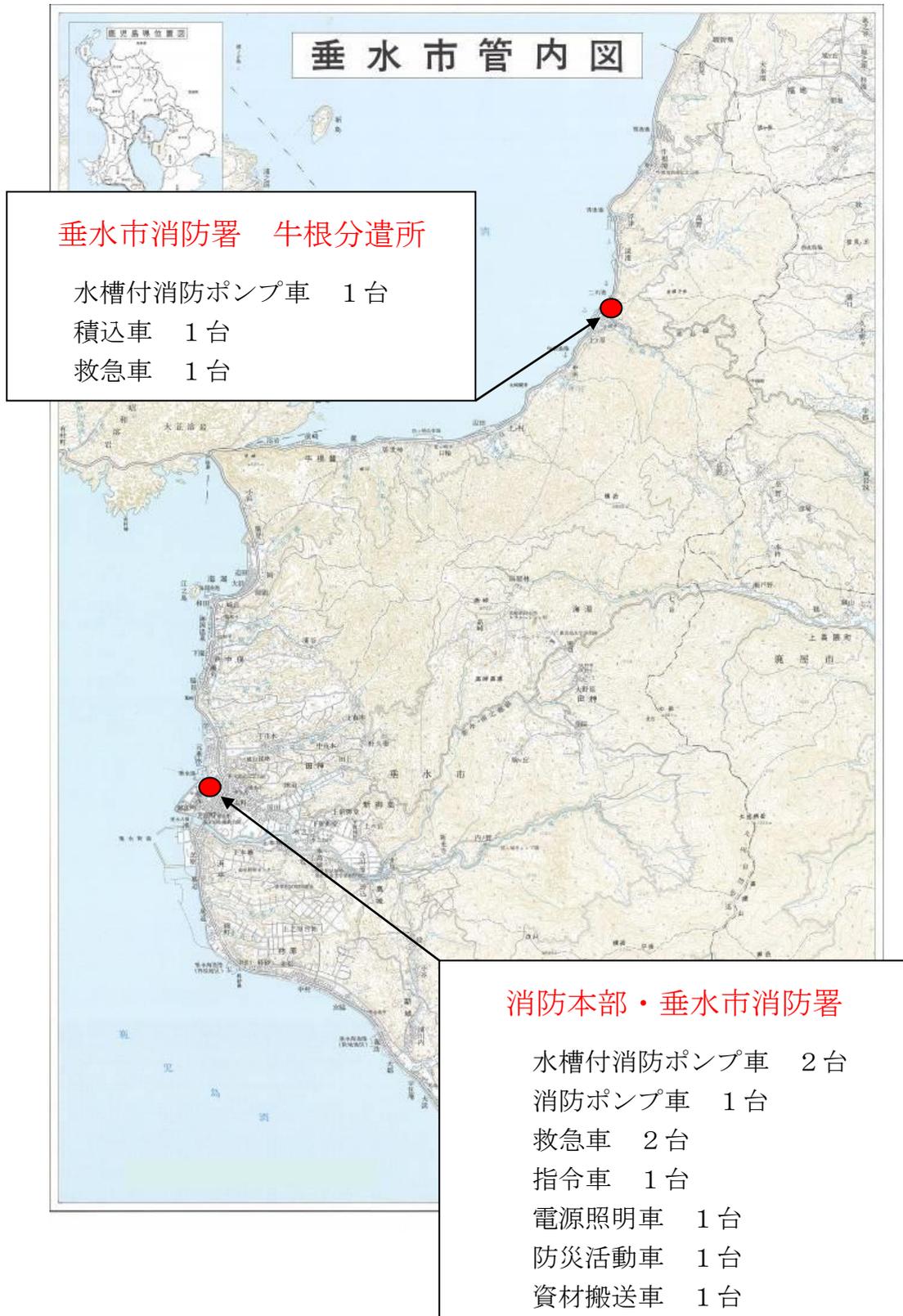
		警防課救急救助係長に迫田八州夕起就任
平成22年	1月 1日	第13代消防長に宮迫義秀就任
平成22年	3月31日	消防職員2名退職（計40名）
平成22年	4月 1日	消防職員2名（救急救命士有資格者1名含）採用（計42名）
		消防本部次長兼署長に野元豊一就任
		総務課長に松山晃就任
		警防課長に永田稔就任
		牛根分遣所長に寺田敏正就任
		総務課消防団係長に二川茂也就任
		警防課予防係長に平野照実就任
		警防課警防係長に迫田八州夕起就任
		警防課救急救助係長に後迫浩一郎就任
平成22年	5月 1日	消防職員2名（救急救命士有資格者1名含）採用（計44名）
平成22年	10月 1日	総務課消防団係長に葛迫英司就任
平成23年	3月31日	消防職員2名退職（計42名）
平成23年	3月11日	総務課消防団係長に葛迫英司就任
		東日本大震災に緊急消防援助隊 車両1台 隊員5名を派遣 （タンク2号車 永田・岩元・湊崎・迫田仁・港）
平成23年	4月 1日	消防職員2名採用（計44名）
		牛根分遣所長に迫田八州夕起就任
		警防課警防係長に才原一生就任
平成24年	3月31日	消防職員3名退職（計41名）
平成24年	4月 1日	消防職員3名採用（計44名）
		警防課長に迫田八州夕起就任
		総務課消防係長に田中昭弘就任
		牛根分遣所長に大坪広幸就任
平成25年	3月 6日	消防庁長官表彰旗授与
平成25年	3月31日	宮迫義秀消防長退職（計43名）
		消防職員1名退職（計42名）
平成25年	4月 1日	消防職員1名採用（計43名）
		第14代消防長に松山晃就任
		消防本部次長兼署長に迫田八州夕起就任
		総務課長兼庶務係長に後迫浩一郎就任
		警防課長に平野照実就任
		警防課長補佐兼牛根分遣所長に葛迫英司就任
		総務課長補佐兼消防係長に大坪広幸就任
		総務課長補佐兼消防団係長に才原一生就任
		警防課救急救助係長に田中昭弘就任
		警防課予防係長に市来幸三就任
		警防課警防係長に岩元昭一就任
平成25年	4月17日	救急救命士資格取得2名（港浩久・上野潤也）
平成25年	5月 1日	消防職員1名（救急救命士有資格者）採用（計44名）
平成25年	8月31日	消防職員1名退職（計43名）
平成26年	3月31日	松山晃消防長退職（計42名）
平成26年	3月31日	消防職員1名退職（計41名）
平成26年	4月 1日	消防職員3名（救急救命士有資格者1名含）採用（計44名）

平成26年 4月 1日	第15代消防長に迫田八州夕起就任 消防本部次長兼署長に後迫浩一郎就任 総務課長兼消防係長に才原一生就任 警防課長に大坪広幸就任 総務課長補佐兼消防団係長に葛迫英司就任 総務課庶務係長に坂元隆博就任 牛根分遣所長に内田勝英就任
平成26年 4月14日	救急救命士資格取得1名(宮迫満)
平成26年10月 1日	総務課消防係長に湊崎浩一就任
平成27年 3月31日	迫田八州夕起消防長退職(計43名)
平成27年 3月31日	消防職員1名退職(計42名)
平成27年 4月 1日	消防職員1名採用(計43名) 第16代消防長に前木場強也就任(市長事務部局より異動)(計44名) 総務課長兼消防団係長に才原一生就任
平成27年 4月10日	救急救命士資格取得1名(福重俊)
平成27年10月 1日	総務課消防団係長に柰田稔就任
平成28年 3月31日	前木場強也消防長退職(計43名)
平成28年 4月 1日	第17代消防長に後迫浩一郎就任 消防本部次長兼署長に才原一生就任 牛根分遣所長に湊崎浩一就任 総務課消防係長に内田勝英就任
平成28年 6月 1日	救急救命士資格取得1名(前原悠)
平成29年 4月 1日	総務課長に大坪広幸就任 警防課長兼救急係長に田中昭弘就任 警防課長補佐兼予防係長に市来幸三就任
平成29年 4月12日	救急救命士資格取得1名(外村敬彦)
平成29年 6月30日	消防職員1名退職(計42名)
平成30年 4月 1日	消防職員1名採用(計43名) 総務課庶務係長に岩元昭一就任 警防課警防係長に内田勝英就任 総務課消防係長に坂元隆博就任 警防課救急係長に丸山悟就任
平成31年 4月 1日	消防職員1名採用(計44名) 総務課消防団係長に湊崎浩一就任 牛根分遣所長に柰田稔就任
平成31年 4月15日	救急救命士資格取得1名(園田幸平)
令和 元年 8月26日	指導救命士資格取得1名(港浩久)
令和 元年12月31日	消防職員1名退職(計43名)
令和 2年 4月 1日	総務課長補佐に岩元昭一就任 庶務係長に脇秀樹就任(市長事務部局より異動)(計44名)
令和 2年 4月13日	救急救命士資格取得1名(内村雄太)
令和 3年 1月31日	消防職員1名退職(43名)
令和 3年 3月31日	消防職員1名退職(42名)
令和 3年 4月 1日	消防職員2名採用(44名) 総務課長に田中昭弘就任 警防課長に市来幸三就任

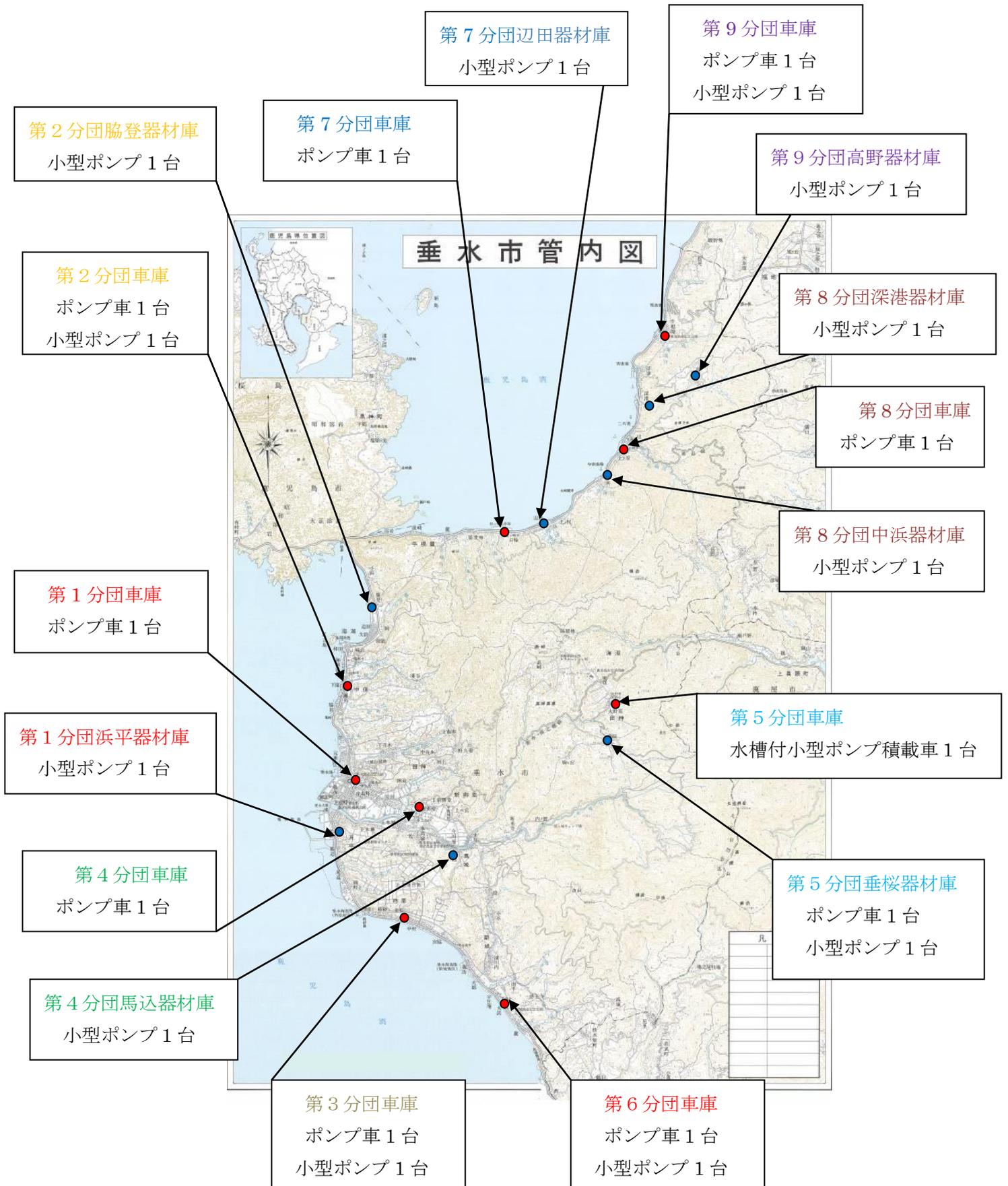
令和 3年 4月 1日	警防課長補佐兼予防係長に岩元昭一就任 総務課消防係長に杵田稔就任 牛根分遣所長に坂元隆博就任
令和 3年 4月 19日	救急救命士資格取得1名（永野孝一）
令和 4年 3月 31日	消防職員2名退職（計42名）
令和 4年 4月 1日	消防職員1名市長事務局へ移動（計41名） 消防職員3名採用（計44名） 消防本部次長兼署長に田中昭弘就任 総務課長に市来幸三就任 警防課長に岩元昭一就任 警防課主幹兼予防係長に内田勝英就任 総務課主幹兼庶務係長に湊崎浩一就任 警防課警防係長に下瀬智寛就任 総務課消防団係長に西原隆明就任 総務課消防係長に厚地政寛就任

8 分布図

垂水市消防本部分布図



垂水市消防団分布図



9 平面図

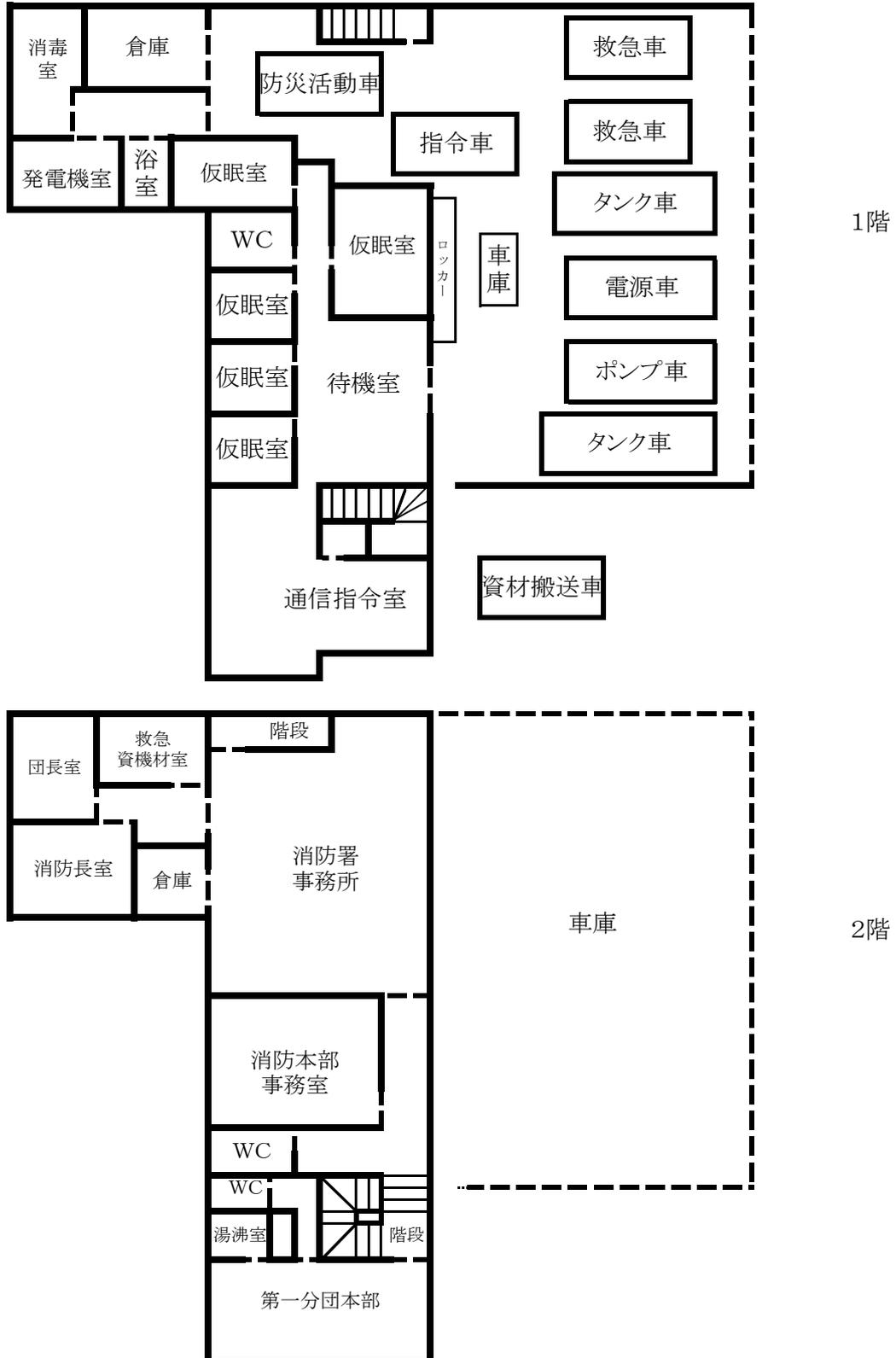
(1) 消防本部・消防署平面図

敷地面積 834.47㎡

建築延面積 830.33㎡ (鉄骨コンクリートブロック造
亜鉛メッキ鋼板・スレート葺2階建)

1階 508.99㎡

2階 321.34㎡



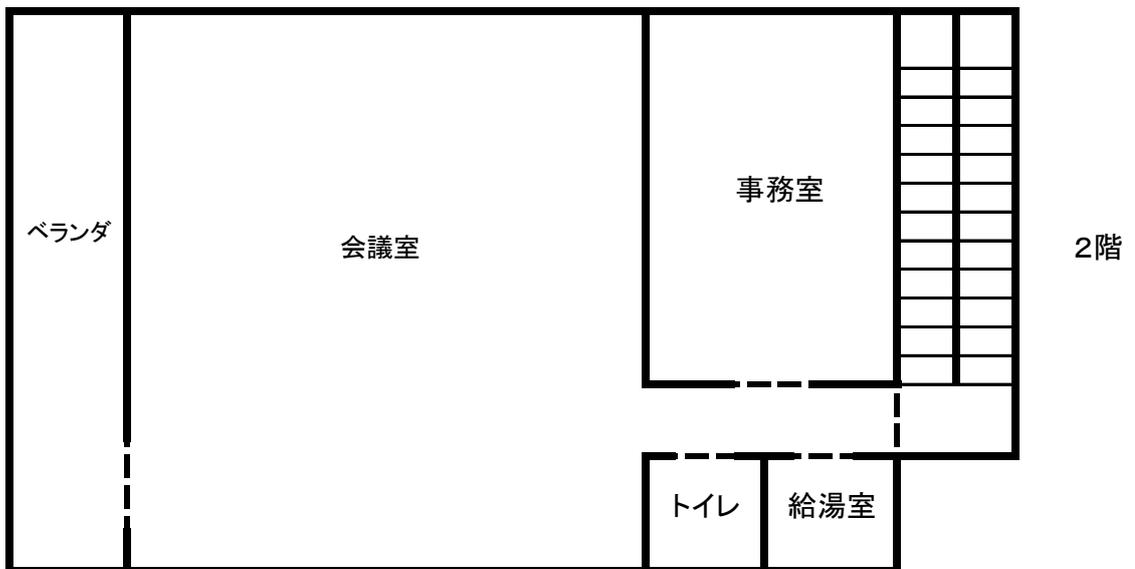
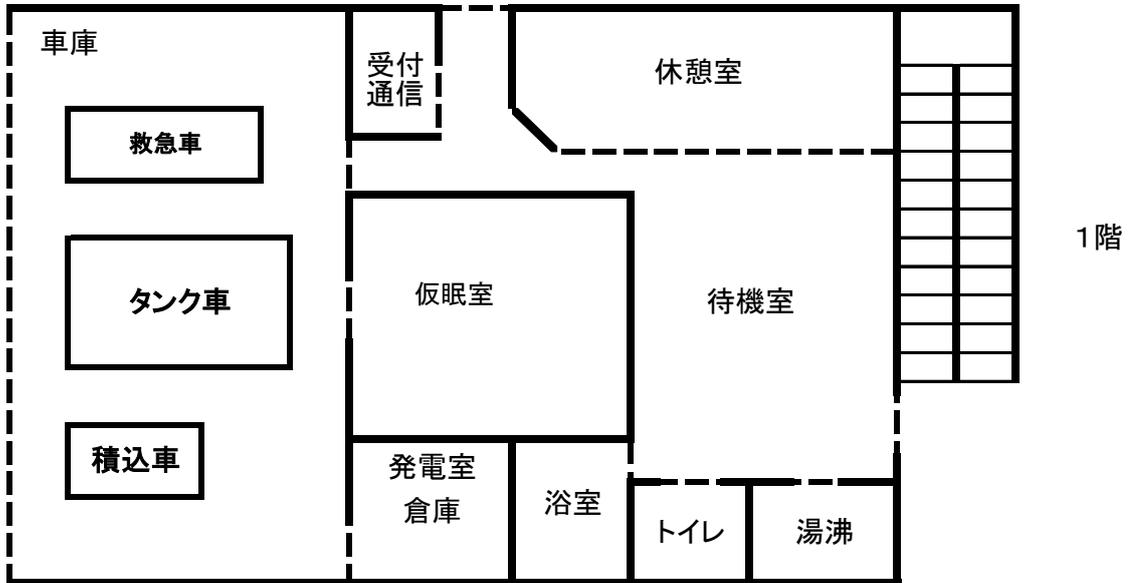
(2) 牛根分遣所平面図

敷地面積 777.71m²

建築延面積 320.0m²

1階 159.0m²

2階 161.0m²



10 消防本部(署)の市町村相互応援協定

(1) 消防・救急業務相互応援協定	鹿児島市	昭和 50 年 3 月 10 日
		(覚書) 平成 18 年 8 月 1 日
	〃 鹿屋市	昭和 50 年 5 月 1 日
	〃 大隅肝属地区消防組合	昭和 52 年 4 月 1 日
	〃 大隅曾於地区消防組合	昭和 57 年 4 月 1 日
	(再締結) 平成 29 年 4 月 24 日	
〃 霧島市消防局	平成 17 年 8 月 1 日	
(2) 鹿児島県消防・防災ヘリコプター 応援協定	鹿児島県	平成 10 年 6 月 26 日
(3) 救急救命士の救急救命処置に伴 う協定	垂水市医療センター 垂水中央病院	平成 15 年 11 月 27 日
(4) 医師の指示及び事後検証に関す る覚書	垂水市医療センター 垂水中央病院	平成 16 年 2 月 23 日
(5) 消防相互応援協定	霧島市	平成 17 年 12 月 1 日
(6) 鹿児島県ドクターヘリ運航事業に おける救急車搬送に関する相互 応援協定	鹿児島県	平成 23 年 12 月 22 日
(7) 救急隊に対する指示及び指導・ 助言に関する協定	垂水市医療センター 垂水中央病院	平成 29 年 4 月 17 日
(8) 救急隊に対する指示及び指導・ 助言並びに事後検証に関する協 定	大隅鹿屋病院、鹿屋医 療センター	平成 30 年 3 月 5 日
	〃 医療法人青仁会池田病 院	令和 2 年 1 月 17 日

10 消防本部(署)の市町村相互応援協定

- | | | |
|-------------------------|--------------------|-------------------|
| (9)鹿児島県内消防相互応援協定 | 県内消防本部、
三島村、十島村 | 平成 30 年 12 月 25 日 |
| (10)ドクターカー運用に関する協定
書 | 医療法人青仁会池田病
院 | 令和 3 年 10 月 1 日 |

11 消防団の市町村相互応援協定

- | | | |
|-------------|-----|----------------|
| (1)消防相互応援協定 | 鹿屋市 | 平成 4 年 4 月 1 日 |
|-------------|-----|----------------|